

2021

ポクらの

くまもと

海新聞

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT

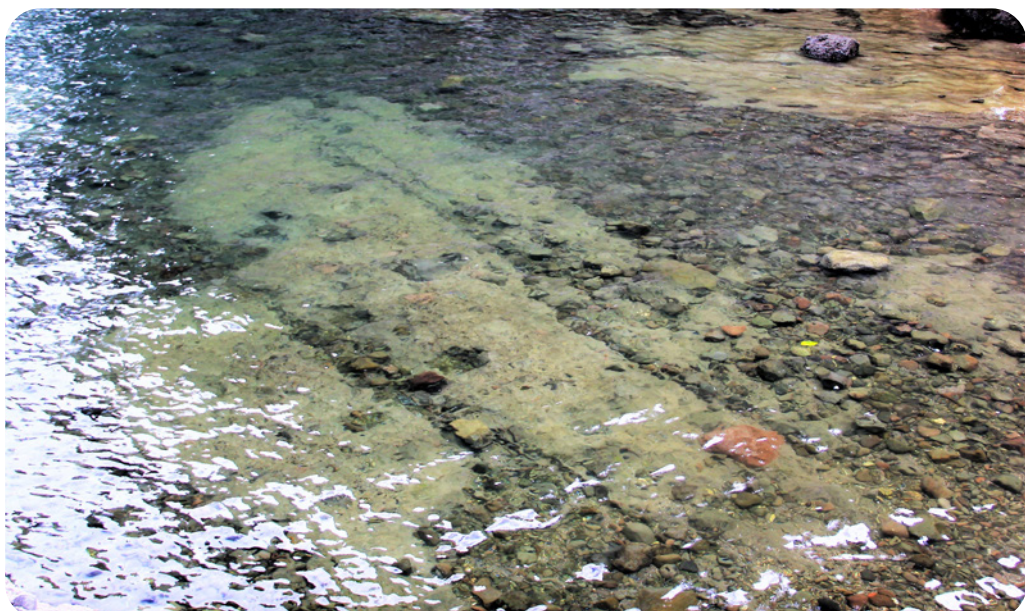
企画・発行

海と日本プロジェクトinくまもと実行委員会事務局
<https://kumamoto.uminohi.jp/>

「海と日本プロジェクトinくまもと」実行委員会／熊本県、天草市、熊本県天草広域本部、熊本市、上天草市、芦北町、津奈木町、水俣市、荒尾市、玉名市、宇城市、長洲町、氷川町、(一社)天草四郎観光協会、(一社)天草宝島観光協会、KAB熊本朝日放送、熊本日日新聞社



再生した
“みなまた”の海を
未来に
つなげるための学び

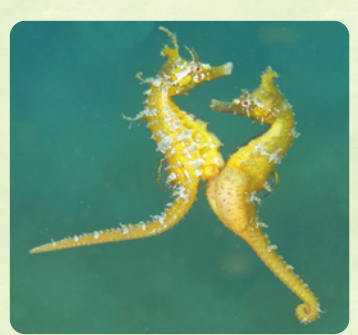


水俣周辺の海は、かつて工場排水により生態系が破壊され、住民の健康にも多大な被害が及びました。それから数十年の歳月をかけ、多くの人々の手で少しずつ元の豊かな海を取り戻しつつあります。そんな「再生の海」のシンボルともいえるのが近年、水俣の海で発見されたタツノオトシゴの一種「ヒメタツ」です。「くまもとポクらの海新聞」では、水俣市の小学5～6年生が参加し、地元の海の豊かさやヒメタツについて学んだ「海を学ぶ体験教室」の様子を紹介します。

「ヒメタツ」って、どんな生き物？

水俣の海に生息する新種のタツノオトシゴ

「ヒメタツ」は、タツノオトシゴよりも一回り小さく、2017年にタツノオトシゴとは別種の新種として認定されました。水俣の海では、それ以前から地元ダイバーや熊本県出身の水中写真家・尾崎たまきさんらによって存在が知られていましたが、水俣を訪れたタレントのさかなクンが実際に確認したことがきっかけで、ヒメタツだと判明しました。地元ダイバーによる観察で、水俣の海には200～300匹のヒメタツが生息していることが分かっていますが、これだけの数が集中して生息するのは国内はもとより世界的にも珍しいとされ、注目されています。



写真／尾崎たまき
オスとメスが向き合いハート型になる愛らしい姿から「愛と幸運のシンボル」とも呼ばれています

「海と日本プロジェクト」って何？

大切な「海」を未来へ引き継ぐための全国規模の活動

「海と日本プロジェクト」は、四方を海に囲まれた日本で海からのさまざまな恩恵を「自分ごと」として捉え、豊かな海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくための取り組みです。2015年に日本財団が旗振り役となってスタートした同プロジェクトは、47都道府県すべてに実行委員会があり、次世代を担う子どもたちを中心に、多くの人々に海への関心を持ってもらい、海を守り・育てる活動を起こすきっかけづくりを進めています。



ことし7月15日に荒尾干潟水鳥・湿地センターで開催した、干潟の役割を学ぶイベント。海と日本プロジェクトでは、県内各地で海について学ぶ機会を提供しています

豊かさを潜って体感！

「海と日本プロジェクトinくまもと」の活動の一つとして、7月23日・24日の2日間にわたり、水俣市の湯の児海水浴場一帯で海について学ぶ体験教室が開催されました。同市内の小学5・6年生を中心にした23人が参加し、地元の海の生態について専門家の話を聞いたり、希少なツノオトシゴ「ヒメタツ」を観察したりしたほか、豊かな水俣の海を自分の目で確かめるシュノーケリング体験も行いました。



写真/尾崎たまき

わたしたちが学んだこと・感じたこと

小学生たちが2日間の体験教室を通して知った水俣の海やヒメタツについてまとめてくれました！ 今回の“学び”をきっかけに、彼らがこれからどんな行動を起こしていくのか楽しみです。

水俣の海について

たくさんの生き物にびっくり！

今回の体験教室で、水俣の海はとて多くの生き物がすんでいて豊かだと知りました。シュノーケリング体験では、ムラサキウニやアメフラシ、タイの赤ちゃんなどが見えて驚きました。

海、川、山はつながっている

海水をきれいにしたり、魚のすみ家になったりしているアマモという海藻が減っているのを初めて知りました。海、川、山は一つにつながっているので、海だけでなく、それぞれの清掃活動をするのが大切だと思います。

ごみを拾い、自分も捨てない！

今海がきれいになれば、もっと魚が増えると思うので、海や海岸に落ちているごみを見つけたら拾うようにしたいし、自分も捨てないようにしようと思いました。

まずは自分にできることから

最近、よく海にペットボトルやポリ袋が浮かんでいるのを見て、「海が悲しんでいる」と感じていました。これからは、環境保護のための募金や動物の保護活動、ごみ拾い、日頃のごみの分別など、できることからやっていきたいです。

プラスチックごみは魚の大敵

魚たちが、海の中に漂っている小さなプラスチックをエサと間違えて食べて死ぬことがあると知りました。そんなことが起きないようにするために、海や川にプラスチックごみを捨てないようにします。

自分でも環境を守る行動を！

シュノーケリング体験では、海中のタコやウニ、そのほかたくさんの種類の魚が見えて、水俣の海の豊かさを実感しました。海の生き物たちがすみやすい環境を守るためにも、海でゴミを見かけたら拾おうと思います。

プログラム

7/23
Friday

1日目

8:50	集合
9:00	オリエンテーション
9:30	座学「今のみなまの海」 森下 誠さん/尾崎たまきさん
12:10	昼食、移動
13:00	磯の生き物とヒメタツの観察
15:00	環境学習「ヒメタツについて学ぼう」(オンライン) 上智大学理工学部・川口真理准教授
15:50	1日の振り返り
16:10	終了、解散

7/24
Saturday

2日目

8:50	集合
9:00	海のそなえ学習(シュノーケリング・藻場観察事前学習)
10:00	シュノーケリング体験と藻場の観察 森下 誠さん/尾崎たまきさん/ アグリライト研究所代表・園山芳充さん
12:00	昼食
13:00	商品パッケージイラスト作り 鬼塚日昭堂・鬼塚憲幸さん
14:30	新聞記事作り講座
15:30	2日間のまとめ
16:00	終了、解散

活動の記録

知っているようで知らなかった地元の海のこと。数々の貴重な体験によって、未来を担う子どもたちの「水俣の海を守りたい」という気持ちが高まりました。



ヒメタツやその他の生き物の生息に欠かせないアマモの特長や役割について解説するアグリライト研究所の園山さん

ウニなどの生き物を獲ったりして、水俣の海に“触れる”ことで、豊かさや現状を肌で感じた子どもたち



ヒメタツのすむ水俣の海



参加してくれた子どもたち 松下龍平、松下翔太郎、藏菌真太郎、吉田瑠優、吉田葵衣、元田翔真、遠山弥咲、桐木満春、山口登亜、松本真帆、水野比圭里、水野煌大、清崎美琴、徳富厚起、吉田知結理、牧野 翠、吉本凌太、田代紘嗣、谷口心寧、星 七海、山下蒼介、山下慳也 ※順不同



写真/尾崎たまき

私たちが水俣の海に魅せられました!



水中写真家 尾崎たまきさん

熊本県出身で25年にわたり水俣の海の変化と再生を撮り続けている。2019年には、タツノオトシゴを題材にした絵本「フシギなさかな ヒメタツのひみつ」を出版。

身近な海に触れてそこに暮らす生き物に思いを馳せて!

水俣の海は、内湾でいつも穏やかなのが特長です。また、潜るポイントが岸から近く、水深も浅いのでじっくりと観察することができます。決して派手さはありませんが、海底から湧き水や温泉が出ているところもある特殊な環境のため、他とは異なる生態系が見られると感じています。一方で、魚のエサとなる海藻類が年々減っていたり、代わりにエダサンゴが増えたりしている影響で、漁獲量が減少しているという現実もあります。

子どもたちには、身近な海で遊び、海に触れることで、ここで暮らす生き物たちに思いを馳せてもらえればと思います。そして、その生き物たちが暮らしやすい海になるよう、一人一人の心に「海を汚さないようにしたい」という気持ちが芽生えてくれたらうれしいです。



水俣ダイビングサービス SEA HORSE 代表 森下 誠さん

水俣でダイビングショップを営み海の魅力を伝える一方、12年にわたって水俣の海に住むタツノオトシゴを観察し、その生態を記録し続けている。

ヒメタツの暮らす豊かな海「保護区」で守り継ぐ活動を

他の海であれば船で何十分もかけて移動しないと見られないような豊かな生態系が、これほど生活圏に近いところで観察できる場所は全国的にも多くありません。ただ、日々潜っていて感じるのは、水俣の海にも確実に地球温暖化の影響(海水温の上昇)があり、それが海藻類の生育不良など、生態系にも影響を及ぼしています。

私たちダイバーも、増えすぎたウニの駆除を行うなどして、藻場の再生に取り組んでいます。また、プラスチックやビニールのゴミも年々増えていると感じています。環境問題への意識を高め、ヒメタツの生息する貴重な海を次世代に守り継ぐためにも、全国初の「ヒメタツ保護区」を作り、見守っていく活動が必要だと思っています。

ヒメタツは水俣の誇り

昔は汚染されていた水俣の海は、長い時間をかけて少しずつきれいになりました。その海でヒメタツが見つかり、水俣の海のシンボルになっていることを誇りに思います。

珍しい生態を知ってびっくり

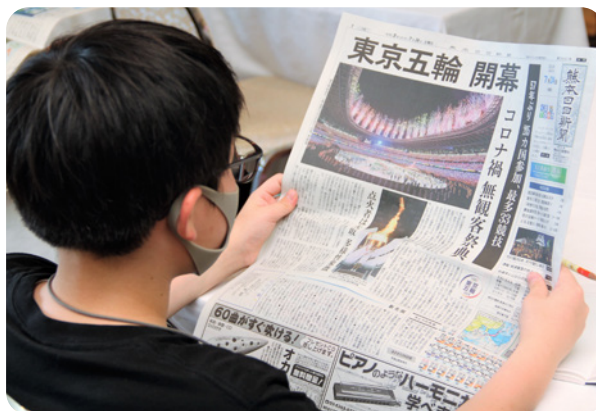
ヒメタツは、生まれてくるときはメスしかなくて、その中からオスになっていくと聞いて驚きました。他にも、魚とヒメタツの違いやヒメタツのオスとメスの見分け方なども学ぶことができて良かったです。

天敵から子どもを守る出産方法

ヒメタツは、真夜中に出産すると知りました。最初は「どうして?」と思いましたか、真夜中だとヒメタツの天敵になる生き物がほとんど寝ているので、生まれた子どもたちが襲われにくいからだそうです。

ヒメタツのすみ家を減らさないために

アマモなど、すみ家になる海藻が減るとヒメタツの数も減ると学んだので、これからは水俣の海にアマモをたくさん植えていく活動などに参加していきたいです。



新聞の作り方や文章の書き方を学び、水俣の海やヒメタツのことを多くの人に伝えるためのヒントをもらいました



専門家のレクチャーを受け、水俣の海の中を自分たちの目で確かめるシュノーケリング体験に挑戦!

水俣の海を
PR

地元で人気の菓子店とコラボ!

和洋さまざまな“スイーツの町”としても知られる水俣市。子どもたちの学びをカタチにし、ヒメタツの生息する豊かな海を広くPRするために、地元の菓子店・鬼塚日昭堂とコラボ! 子どもたちが描いた水俣の海やヒメタツをあしらったデザインを同店の商品のパッケージにして販売する計画が進行中です。皆が描いた作品の一部を紹介します!



皆さんの描いた絵が水俣の海やヒメタツのPRにつながるのはもちろん、実際に商品のパッケージになって店頭で並ぶ感動も味わっていただければうれしいです。



鬼塚日昭堂
店長 鬼塚憲幸さん



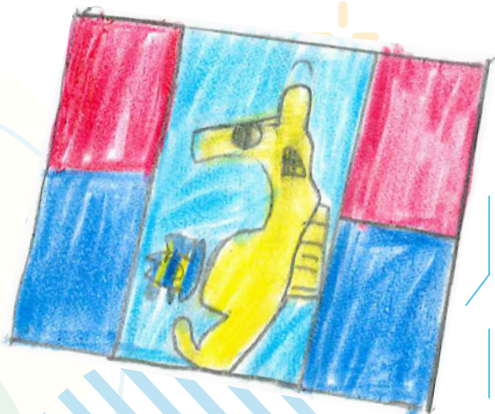
水玉が水俣の海の豊かさを表しているみたい!



甘夏と水俣の海に沈む夕日がコラボ!



大切なメッセージがたくさん書いてある!



赤が太陽、青が海を表現しているんだね



ヒメタツが甘夏を抱えている姿がキュート♡



にぎやかな色使いが目立ちそう!



爽やかな水色が水俣のお菓子にピッタリ

みんなのアイデアが詰まった作品がいっぱい!

コラボ商品 製作 進行中!

子どもたちの描いた作品がコラボする商品は、鬼塚日昭堂の「どら焼」に決定! どら焼きの表面にヒメタツの焼き印が入るのに加え、パッケージの帯封にも、子どもたちの作品に描かれたヒメタツが複数入ります。商品は、JR九州新水俣駅内「みなまた観光物産館」などで近日発売予定。見かけたら、ぜひご購入ください!



このパッケージに描かれるのは、どんなヒメタツ?!